

第3回 双葉町復興まちづくり委員会

生活再建部会 議事録

■日時：平成24年12月11日（火） 委員会 午後1時00分～午後1時45分
部会 午後2時00分～午後3時30分
委員会 午後3時45分～午後4時30分

■場所：双葉町役場埼玉支所 4階家庭科室

■出席者：生活再建部会委員
事務局（双葉町企画課）

（参照：第3回生活再建部会座席表）

1. 開会

【高野 重紘 部会長】

部会長の高野です。議事進行に委員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2. 議事

（1）双葉町の教育の在り方について（審議）

【高野 重紘 部会長】

それでは、議事に入ります。本日の議題は、「双葉町の教育の在り方」と「仮の町に住まないと選択された方への支援」についてです。まず、本日、ご議論をいただきたい、「双葉町の教育の在り方について」、事務局から資料の説明をお願いします。

【事務局 駒田 義誌】

それでは資料2というものをお開きください。双葉町の教育の在り方についての論点、というものです。前回10月の第3回委員会において、今後の審議の大きな論点として、双葉町で育つはずだった子どもたちの教育をどのように考えるかというのが大きなテーマとされておりました。本日はこのテーマについて論点をより具体化した形でご議論いただければと考えております。3つの論点を掲げさせていただいております。

まず、1つ目ですけれども、双葉町の学校の再開の意義についてどのように考えたらよいかということで、例えば、1つは避難先の学校に慣れてしまった子どもたちも多いという現実の中で、子どもたちや保護者の視点から、学校を再開する意義はどのようなものがあるかという点。2つ目の視点としては、双葉町の地域社会という視点から、学校を再開する意義はどのようなものがあるかという点についてまずご議論いただければと思います。

2点目として、学校を再開しようとした場合に、どのように学校を再開させるべきかということで、例えば、1つは、どのような場所に学校を再開させるか。例えば、これからつくる仮の町か、現在の子どもたちが多い場所か、福島県内か県外か。2つ目として、再開する学校に多くの子どもたちを集めるようとするには、どのような学校・教育環境を整備すべきかという点。

37 3つ目の論点になりますけれども、双葉町の学校ではなく、避難先の自治体の学校に引き続き
38 通う子どもたちに対して、双葉町の子どもとしての意識、また子どもたち同士のきずなを維持さ
39 せていくため、双葉町の子どもたちが日常的または定期的に集まれる場が必要ではないか。また、
40 そうした場を双葉町の歴史・伝統・文化の継承の拠点として考えていくことも必要ではないか、
41 その点についてご議論いただければと思います。

42 その参考資料として、資料3ということで、現在、「双葉町の幼児・小・中学校児童生徒の避
43 難先一覧」ということで、今双葉の子どもたちがどういう所にいるのかをまとめたものになりま
44 す。まず、大きなくくりで言いますと、福島県内に296名、福島県外に375名になっておりま
45 す。それはタイトルの下の方に書いております。福島県内で見ますと1番多いのがいわき市にな
46 ります。地図の右下の方にいわき市131名と書いております。福島県外に目を転じますと、埼玉
47 県加須市の96名が1番多くなっております。左側に目を転じていただきますと、子どもたちが
48 どういった学校に行っているのかという所になりますが、避難先児童・生徒が多い上位3校をあ
49 げさせていただいております。小学校でいいますと騎西小学校が49人、いわき市の菊田小学校
50 が16人、猪苗代町の長瀬小学校が6人となっております。中学校について言うと、加須市の騎
51 西中学校が35人、いわき市の植田中学校が8人、猪苗代町の東中学校が7人という形になって
52 おります。まとまっているのはこれらの学校くらいでして、あとは皆さん1人、2人、3人とい
53 う形で点在しております。それがどのくらい点在しているのかというのが下の方に目を転じてい
54 いただきますと、都道府県別受入学校数ということで、福島県内に避難されている子どもたちは63
55 の学校に分かれております。埼玉県内についても騎西が多いですけれどもそれ以外の学校も含め
56 て15校に散らばっております。茨城県内も14校に分かれて、全国では158の学校にそれぞれ
57 分かれて避難しております。中学校も同様の傾向でありまして、福島県内の48校に散らばって
58 おります。茨城県でも10校に分布しております。中学校では全部で96の学校にそれぞれ避難し
59 て通っている現状があります。そうした現状を踏まえて、先程の学校の再開の意義であるとか、
60 学校を再開しようとしたときにどのように学校を再開させたらよいか、また、このように散らば
61 った子どもたちをどのように集めたらよいかということ、また、避難先の学校に通う子どもたち
62 の繋がりというものをどのようにしていったらよいかご議論いただければと思います。

63 その参考として、資料4ということで、教育について、今まで8月19日の福島の会場から11
64 月11日のつくば会場の7会場で、町民の方々の議論の中で学校についてどういった意見があっ
65 たのかをご紹介させていただきたいと思います。1つは学校の再開の意見ということで、やはり、
66 学校再開は町復興のシンボルである、また、子どもたちに母校をもどしてあげたい、少しでも多
67 くの子どもの集約できる学校をつくって欲しい、教育が重要。基盤になる小学校などそういうも
68 のが無いと続かない。一方で、避難先の学校に慣れてしまっている。転校は難しいかも、5年も
69 経つと、避難した子どもたちはそれぞれの学校に馴染んでしまうのが悲しいといった意見が代表
70 的なものとしてございます。あとは、町の教育の在り方と言う点で見ますと、町独自の教育ビジ
71 ヨンがほしい。地域を失う経験をした町だからこそ実行してほしいというご意見。子どもは、自
72 立できる、生き抜く力をつけられる町に。未来の双葉町をつなげるために、つながり、誇りをも
73 ってほしい。町民みんなで子どもたちを見守る支援態勢を。双葉町ならではの特色ある幼小中高
74 校一貫教育というご意見。また、特任校に率先して双葉町が手をあげて、積極的にモデルとなる

75 特徴的なまちづくりに挑戦する、1カ所で、すごいなと思うような教育を中心としたまちづくり。
76 一貫したものを1本で束ねるといったご意見が出ております。教育環境といった面で見ますと、
77 生まれたときに一緒に双葉町民だった子どもたちのネットワークが欲しい、海を活かしたスポー
78 ツを広めたい、インターネットを積極的に使って、広い視野を持たせてほしい、双葉町のような、
79 少人数での教育を受けさせたい、他県等、線量の低い所で活動したり、勉強したりできる機会を
80 つくってあげたい。野山、畑、海を走り回らせたい、あと1年で入学だが、何回も転校しないよ
81 うに落ち着いた所に行かせたい、双葉町の子どもたちの中からこの教訓で世界に通用する者が
82 出てほしいといった意見が代表的なものとして出ております。

83 こういった点を踏まえて、本日は教育の在り方についてご議論をお願いしたいと思います。以
84 上です。

85 【高野 重紘 部会長】

86 事務局からの説明が終わりました。それでは、意見交換に移ります。最初に、双葉町の学校の
87 再開の意義についてどのように考えたらよいかについてのご意見がありましたらお願いします。

88 【三井所 清典 委員長】

89 その前に、前回と同じように事務局で7000人の復興会議の意見を拾い上げていただいて資料
90 4にまとめていただいているのですが、それはその後が続いている、たくさん7000人の復興会
91 議で出てきた意見の中で、アンダーラインが引いてあるのがございますけど、アンダーラインの
92 ものをピックアップして前のほうの資料4に載せたということで、これを見てみると、代表的な
93 意見だなというものが拾い上げられているのですけれども、たくさん意見が出ているというこ
94 とをご存知の上で、頭が動きやすいように事務局のほうでまとめていただいたということをして理解
95 いただければいいかなと思います。

96 【高野 重紘 部会長】

97 双葉町の学校の再開の意義についてと申しましたが、1、2、3の論点のいずれでも結構ですの
98 で、1つの観点からということでもなくとも、ご意見がありましたら、どうぞ。

99 【松本 浩一 委員】

100 松本です。本日交せていただいてありがとうございます。前回まできずな部会に参加しており
101 まして、そこで町民のきずなというのをこれから継続していくのにどうしたらよいかというこ
102 とで、学校関係者として意見を述べさせていただきました。と申しますのは、今、町民があちこ
103 ちに散らばっている中で、例えば双葉町の伝統芸能等を継続していくときに、あちこち集まるの
104 は大変だとか、そういうものをこれから若い人たちに継続させていくときにどうしたらいいのか
105 という話が出ました。今、伝統芸能等に携わっている方たちは結構高齢者とか中高年の方、また
106 若い方も今は太鼓とかなんでもはいつておりますが、どちらかというと年配者の方が多いと。従
107 来学校が開いていたときには高齢者の方とかいろいろな方々が入ってきてくれて、総合的学習の
108 時間の時に、いろいろなことを教えてくれたわけです。それが途絶えてしまっているのは学校が
109 ないという現状。ですから、今そういうことを伝統芸能等を続けていくということも大事なんで
110 すけども、学校という機関が全部受けるわけではないんですが、学校もそれを継承していく1つ
111 の機関だと思うので、学校を再開する意味が1つそこにあるのではないのかなと私は考えており
112 ます。以上です。

113 【鈴木 浩 委員】

114 今松本委員が意見を述べられたので、先程の現状の状況の話の中に元々双葉町立小中学校にお
115 られた教師の方々は今どういう状況になっているのか、あるいは教師の方々が全体として双葉町
116 の小中学校教育に対して、どういう思いなのかをどこかで伝えていただければありがたいと思
117 ったんですね。教師の方だって不安定な気持ちの中で過ごしておられますよね。それともう1つ、
118 データ的なことを教えていただきたいのですが、先程は住民票をそのままにして避難先の状況
119 が書いております。純粹に転出してしまったのは総数でいいのですが、住民票がそのままの人
120 が671名ですか。転出者というのはこれに対してどのくらいになっているのでしょうか。

121 【高野 重紘 部会長】

122 分かっているならば説明をお願いします。

123 【高野 憲一 委員】

124 転出者の数でございますが、まず3歳から5歳まで、昨年の3月11日以降に転出した子ども
125 の数は24名。次に、小学生につきましては31名、中学生は14名、合計69名の方が住民票を
126 移しております。

127 【鈴木 浩 委員】

128 ありがとうございます。

129 【荒木 幸子 委員】

130 双葉中学校の荒木です。よろしく申し上げます。今鈴木先生からお話がありましたが、まず生
131 徒の避難先一覧を見られて、県外の方が県内より上回っているように見えるのですが、幼小中を
132 1つのくくりにして扱っているのです。そのようなデータとして出ているのですが、中学校でいえば
133 現在は福島県内が48%、県外が52%とほぼ半々ぐらいです。小学校、幼稚園となりますと、や
134 はり県外の方が多いといった特徴があります。先生方についてですが、校長の勤務校署は私と松
135 本先生が郡山に事務所を構えて事務をとっている状況であります。双葉南小学校の校長先生は会
136 津の教育委員会でデスクを借りて事務をとっている状況です。それから教頭3名については騎西
137 小・中学校で教諭という形で併任をして勤めております。それからそれ以外の教諭3名について
138 は騎西小・中学校に、小学校に2名、中学校に1名、併任という形で補職しています。その他の
139 教員については福島県内の各学校に兼務という形で、震災当初の年には相双地方の生徒の心のサ
140 ポートということをして1番のお仕事として県内各地で兼務という形で勤務していたのですが、今年
141 は2年目となりましたので相双のサポートというよりも、その学校のいち教員として兼務という
142 形で勤務させていただいている現状です。双葉中学校の先生について言えば、今年先生方と集ま
143 りをもったのは3回です。春、それから再会の集いの時、そして冬、12月と3回集まりを持ち
144 ました。そのときに、先生方の多くは双葉中学校の再開に関わりたいと言っており、双葉中学校
145 への熱い思いを持っております。ただ、中学校は今年3年生が卒業するとともに同じ校舎で学ん
146 だ子どもたちが1人もいなくなってしまう。再会の集いの時に子どもたちが今年たくさん集
147 まったのは、ともに学んだ子どもたちが再会したいから集まったんだと思います。来年度からはとも
148 に学んだ子どもたちがだんだんいなくなってしまう状況にあるので、資料の1番下の3番の論点で子
149 どもたちのきずなを維持するために集いをしたらどうかというプランがありますけど、集いはこ
150 れから年が経てば経つほど、ともに学んだから再会したいのであって、ともに学ばなかった子た

151 ちが再会するというのは、よっぽど何らかの方法でモチベーションを上げなければ集まることは
152 難しくなるんじゃないかなと思います。学校はやはり町のシンボル、心のよりどころとなってい
153 くと思いますので、双葉町の子どもたちがともに学ぶ場所をやはり確保していかなきゃいけない
154 のではないのかなと思います。ただ、避難先で、すでに学校に慣れ、お父さんお母さんが職業を
155 持ち、住居が安定したという方はその学校で力を発揮してもらい、その地域の中でその地域の
156 一員となって活躍してもらい、そういう中で、親御さんから「私たちが育ててくれたのは双葉とい
157 う町なんだよ」、「双葉町の為になにか頑張ってくれないか」というような、そういった教育を家
158 庭でもらう以外にないんじゃないかなと思います。最後に、私としては毎回言っているんで
159 すが、時間が2年、3年、4年と経ったときに、学校再開するのは難しいと。例えば、5年経っ
160 た時にて双葉中学校をつくりましたと言ってもそこに果たして戻ってくるのかという想いがあ
161 りますし、やはり時間との戦いではないかなと思います。以上です。

162 【高野 重紘 部会長】

163 ありがとうございます。その他まだ意見を言っていない方。

164 【笠原 真一 委員】

165 笠原です。ご質問なんですけど、町でも国でも県でもいいんですけど、もし学校を立ち上げる
166 場合の最低人数とか、現実的なその辺の設定というのは今現状あるのでしょうか。

167 【高野 憲一 委員】

168 ただ今の質問ですけれども、基本的には1人でも希望があれば学校は立ち上がると思います。

169 【笠原 真一 委員】

170 だとすると、先生もおっしゃんですけど、スピードの面から、今度全町民アンケートをされ
171 ると聞いてはいたんですけど、その中でも、1人でもいいということであれば、その質問の設定
172 を設けていただいて、質問していただきたいと思います。特に、この表を見せてもらったん
173 ですけど、いわきの菊田小学校16人、そういうところを、皆さん1人だと心細いというか入るのもあ
174 れなんだと思いますので、こういう所を重点的に聞いてあげたり、今迷っている親御さんも現に
175 います。私お話しして。仕事も決まらず、子どもの行き場所は結構、親の進路としても大きい所
176 なんですけど、そういう親御さんもそういうたたき台が1ヵ所でもできれば、またそこに行きた
177 いという方も現時点ではいると思います。そういう意味では、いち早い皆さんのアンケートを聞
178 いていただきたいなと思います。

179 【高野 重紘 部会長】

180 ありがとうございます。その他ありますか。

181 【鵜沼 友恵 委員】

182 鵜沼です。学校再開なんですけど、うちの娘の場合で言うと、来年中学校なんです。中学校を
183 今どこに行くべきかやはり悩んでいるのですが、やっぱり、「中学校、知らない先生より双葉
184 の先生がいるところに私は行きたい」と言います。いわきとかの現状をほかのお母さん方に聞く
185 んですが、高校によっては倍率が30倍であったり、かたや、廃校の危機で、高校はやっぱり定
186 員割れをしていたり。そうすると、「今までこのレベルだったら入れるよ」という高校の倍率が
187 30倍とかになると、やっぱり中学校はいいですけど、その後の進学、就職を考えたときに難し
188 いと思ってしまうのが現状です。再会の集いについて娘に聞いたんですけど、やっぱり避難生活が

189 長引くと、同じ3年生、4年生まで学んでいたから南小がいいと言うんですが、それでも避難が
190 長引いてたために、例えば騎西の子、福島の子は、大きいから生活が違うので話題が繋がらな
191 いというんでグループがフリータイムの時に、分かれてしまうんです。「それがものすごく寂し
192 いんだ」ということがありましたので、やっぱり親とか教育委員会とかその辺の工夫が必要なの
193 かなと感じていました。以上です。

194 【高野 重紘 部会長】

195 どうもありがとうございました。

196 【中村 希雄 委員】

197 意見提案ではないんですが、私の子どもは大きいんで孫なんですが、避難して歩いたのでね。
198 孫の実態、今は近くに住んでるんですが、下の子は被災した時幼稚園の年少、上の子は北小学校
199 だったんですが、まず上の方から言いますと、仲良し3人組女の子、いつも遊びにきたり、吹奏
200 楽とかいろいろ仲良くやってよかったんですが、まず静岡に1年いたんですよ、6年生。それが
201 終わるのを待って、今つくばの並木中学校に入って、やっぱり吹奏楽をやりたいということで入
202 って、このあいだも茨城県南のアンサンブルに出てたんですが、もう何十組もあるんですね、50
203 も60も。ものすごく多いんですが、今になって思えば、北小というところは吹奏楽は県に出た
204 りと優秀だったんですよ。だからこの間の大会も予断なんです、1年生なのにトランペット
205 で出されてるくらいですよ。他の子は一生懸命やらなくて勉強の方ばかりやってるんです
206 よ。つくばは学歴が高いというんで。うちの孫なんかは「トランペットをやってればいい」との
207 んきなんでそれでいいんですが。生活サイドを申し上げたいんですが、静岡にいた1年もみんな
208 仲良く真っ黒になって遊んでいたし、走るのも1番早くて、「福島から来たあの子はどばやい、
209 どばやい」と何ていったら、超はやいと言うんですが、そういうふうに言われて仲良くやってま
210 した1年間。惜しまれて、つくばへ今度父親が仕事を見つけて正社員で土浦に勤めてますから、
211 1番幸せな生活を送ってるんですが、中学校でもすごくいきいきと、毎朝7時に行って、吹奏楽
212 を練習したり土日も行って、すごく楽しそうにやってるんです。下の子どもは小学校1年、今つ
213 くばで、並木小学校。この間、高田さんと一緒に運動会に呼ばれて行ってきましたけど、私、地
214 元の自治会長ということで。学校も開けて、住んでる人たちもフラットでね。誰でもいらっしや
215 いと大きな気持ちで受け入れてくれてますんで。子どもたちもすごくのびのびと明るくて、何カ
216 月前、井戸川町長がつくばに見えた時ですね。我々にじゃなく、子どもに向かって「学校楽しい
217 かい」と聞いたら、二人とも同時に「楽しい」と言ってるんですよ。下の子なんて今も帰ってき
218 たら遊びに行くことに夢中で、地元の子どもらと飛んではねて夜まで遊んでるくらいで。何せい
219 きいきとやってるんですよ。双葉でものびのびやってたんですけどね。ですから、そういうの
220 を見ると我々がこんなに真剣に思わなくても、地域にもよりますけど、子どもは慣れてるんでそ
221 んなに真剣にならなくても、今いる所でうまくいってれば、先程荒木先生が言われたように、
222 その地域でやっていけばいいので、私は孫たちはこのまま、本人たちもそのままでいい。「双
223 葉へ帰りたかい」と上の子に聞くと、「今は帰りたくない、家も見たくない」と。やっぱり
224 北小にいて怖かったのが忘れられないんですね。静岡で自由課題で「作文をなんでもいいから書
225 け」と言われて、そして書いて金賞をもらったのを私読んだら、要するに北小では机の下に隠れ
226 て、校庭に出てどうこうという作文があるんですが、その時の恐怖は忘れないようなんですね。

227 口では言わないんですけど。何を言いたいかというと私は、あそこには小名浜からいらっしやっ
228 た小学校の先生がいらっしやるんですよ。やはり被災したということで。双葉から来た先生とい
229 うことにこだわらなくて、福島から来た先生がいるということなんですが、やはり全部教育委員
230 会それぞれの地域で考えてくれてるんだなあとうれしく思うんですけど。改めて、なぜ学校を作
231 らなくてはいけないのか、1つくらいは、現在おもしろくない場所にいる子には復興の町と称す
232 る場所につくって、そこを素晴らしい学校にしていけばいいんであって、全体に子どもをみんな、
233 我々の感覚でやる必要はないんじゃないかと、私の考えなんですけど。生き生きしている子ども
234 を見てれば、今更かき回す必要はないんじゃないかと。そういう感じだと思います。以上です。

235 【高野 重紘 部会長】

236 今の意見も重要だとは思いますが、実は第2回生活再建部会の時に、荒木先生がおっしゃって
237 いた、学校の立ち上げを早くするべきだという意見があったと思うのですが、私もその件につい
238 て、皆さんの意見をお聞きしたいと思います。

239 【田中 清一郎 委員】

240 学校側の話と中村委員のような話とこう分かれてるんですよ。大変難しい問題かなと。我々
241 が軽々にこういうことを話をしてまとめていくにはせんえつかなと今思っているんですけど。教
242 育者とか教育委員会の意見をなるべく尊重しながら、我々が側面からサポートするという形にし
243 ない限り、我々が軽々に先走っていろいろなことを予先するということはちょっとと私は思っ
244 てるんですけど。私も孫が、大熊の役場がたまたま会津に行きましたよね。孫が3人とも一緒の
245 学校、校舎に通学できるような環境にいるので大変安心してらるんですけど。もう1人は、もう1
246 つの家族はいわきなんですけど、これはそういう集団で通学できないので、たまたま居ついた場
247 所の学区でそういう生活をしているという、それぞれ、うちの家族の中でも違うような生活を
248 してるんですけど。やはり、理想は運動会なんか大熊の場合には、小学校、中学校が一緒にやっ
249 て、私もその折に行ってみてるんですけど、ああいう形が理想かなと思ってるんですけど。たま
250 たま、振り返っちゃいけないんですけど、双葉の場合はこういう環境になっちゃったので、よそ
251 の町とは違うような状況でいろいろな問題が提起されてるんですけど、いずれにしても、子ども
252 たちはこれからの町を担う宝ですからね。できれば我々のいろいろな残したものを継承してもら
253 って、文化や芸術とか、いろいろなものを受け継いでもらうには、今の子どもたちを大事に双葉
254 町の町民として育て上げないと、双葉町は消えちゃうんじゃないかなと心配をするんで。もちろ
255 ん、今避難生活の中でもそれぞれそこのお世話になってやってるんで、それはそれとしていいん
256 でしょうけど、双葉町の将来を考えた場合にはできるだけ多くの子どもたちが双葉の町民として
257 残ってもらって、いろいろなものを受け継ぐということも含めた中での話し合いを進めていかな
258 いと、と私は希望をしています。以上です。

259 【松本 浩一 委員】

260 今のところでどこに行ってもきちんと生活していけるお子さんが一番理想的だと思います。双
261 葉北小に行って、双葉で学んでほしかったけれども、それぞれの地で頑張ってもらいたいという
262 のは、私も個々に対する想いです。今、田中委員がおっしゃったように、よき納税者を育てると
263 私たちもよく言いますが、そういう子どもたちが現に双葉町が残らないとすると、町の存続
264 にも関わる、いろいろな意味でそういうふうに私も感じております。以上です。

265 【荒木 幸子 委員】

266 資料2の2番の、「学校を再開しようとした場合にどのように学校を再開すべきか」にも絡ん
267 でくるかと思うんですが、本当に馴染んでいきいきと生活している子たちがそこで力を発揮して、
268 そういう子の中から、双葉町で育たなくてもおじいちゃんおばあちゃんが育った、お父さんお母
269 さんが育った双葉町のために頑張ってくれる子が育ってくれば本当にいいと思うんです。ただ、
270 中には、他地域に馴染まない子もいるだろうし、どうしようかなと悩んでいるお子さんもいるん
271 だと思うんです。本当ならば、学校は集団生活の中で社会性を学んだり、学力をつけたりするん
272 ですけど、まずはそういう子たちのためにも少人数教育が徹底できるような学校をまず最初にス
273 タートさせるのが一番良いと思います。この1年9ヵ月たった段階で、この形で再開させるのが
274 1つの方法かなと。集団で生活するのが本来の学校であると思うんですけど、たくさん人数を
275 集めることはもうこれだけの日にちが経ってしまったからは厳しいなと。そうなった時に、今現
276 在双葉郡で再開している学校は、生徒の人数に対して先生の数の方がすごく多いです。いわゆ
277 る震災加配という形で先生をたくさんいただいておりますので、かなり手厚い指導ができる。で
278 すから、例えば学校に行けないお子さんがいたらお迎えに行くこともできる、教室に入れないの
279 だったら違う別室で見えあげることもできる、いろいろな手厚い指導ができるかなと。双葉高校
280 に関して言えば、今も1学年160人近い人数がいたときと同じ枠の推薦枠をもらっている、つま
281 り、今の3年生は60人足らずしかいないと思うんですが、それでも指定校推薦の枠は同じ推薦
282 枠をもらっているというふうに双葉高校の校長先生からはお聞きしました。ですから、小さい学
283 校ならではの手厚い指導や有利な面もあると思うので、小中高連携で手厚い指導をしながら、最
284 最終的に目標となる上級校とか就職口、就職口も十分に来ているという話を受けているので、最初
285 は少人数でもしょうがないと思うんですね。集団教育ができないだろうと言われればそれまでな
286 んですが、そういう形で再開するのがベストな形かなと思っています。以上です。

287 【鈴木 浩 委員】

288 浪江町の経験をお話しいいのですか。浪江町の復興計画を10月に提出したときに今のような問
289 題がどうなっているかという、こちらでこれから部会で議論されるかと思いますが、浪江町は
290 町外コミュニティを数ヵ所に分けてやろうと。その1つはいわきであったり、南相馬であったり、
291 二本松であったり、それから、浪江町の中には請戸を含めて極めて低線量の地域があります。僕
292 が住んでいる福島より低いくらいで。そういう所を復興拠点にするという考え方があって、複数
293 のうちに町内の復興拠点をつくりましょうと。しかし、やっぱりベースは何と言っても、いわき
294 だとかそういう所に集結する、希望者はどんどん減っていくんですが。ただその時に、県と協議
295 しないといけないんですけど、いくつかの町村がいわきに仮の町をつくらうとしている。それを
296 バラバラにつくっていわきが受け入れるかという大変厳しい状況で、例えば我々が考えたのは
297 まだきちとした方針ではないんですけど、例えば、双葉郡の一部組合とか、そういう双葉郡と
298 して一緒にやることである程度の規模の論理を重視するわけではないんですけど、ある程度そう
299 いうことをして双葉郡としてそういう対応をしていかないと、いわきの中に新しい学校をそれぞ
300 れ町ごとにつくるとか、中学校をつくるというのは少し厳しいなと我々は受け止めて、浪江では
301 新たにつくるコミュニティというのは、医療施設だとか福祉施設も含めて、学校も勿論あるいは
302 乳幼児施設も含めて、そういう郡としての一部協同組合や広域連合みたいな格好を選択していく

303 必要があるんじゃないかと。それはここで議論する必要はないかもしれないんですけど、そうい
304 う確保をしないと、拠点性は確保できないんじゃないかなあと感じているんですけど。一步踏み
305 込んだ議論としてありうるかなあと思うんですけど、どうなんでしょうかね。

306 【高野 重紘 部会長】

307 双葉町というだけでなく、双葉郡内という形。その点についてはいかがですか。

308 【鈴木 浩 委員】

309 今のところ、いわきに仮の町をつくるあるいは我々は町外コミュニティと浪江では言ってます
310 けど、名乗りをあげているのは4つだけなのね。双葉郡全体ではないかもしれませんが。

311 【渡邊 ゆかり 副部会長】

312 それで質問なんですけど、今の話を聞いて学校は学区があるじゃないですか。そういう場合は、
313 例えばいわきの菊田小学校が多いから、菊田を近くに学校をつくりますと言ったときに、その
314 近くにいる双葉、浪江、どこかという所だけが通えるのか、30分、1時間もかけてそこに通いた
315 いという方がいれば通えるようになるのですか。

316 【鈴木 浩 委員】

317 それは決まっております。要するに、そこにどの位の児童数が親御さんも含めて集結するか
318 で、そこに新たに設置する組合立の小学校、中学校がいくつになるかによりますよね。例えば、
319 それが3つ、4つになっていくんだったら、学校をきちっと整理して、それにふさわしい立地を
320 考えなきゃいけないだろうし、町外コミュニティや仮の町にここ双葉もそこに集結しますよとい
321 う場合に、どのくらいの人たちがそこに名乗りをあげるかをきちっと意向調査をしたうえで、ほ
322 かの町も子どもたちが何人になるか、それで委員のお話のように真っ先に小学校、中学校をつ
323 かないといけないねという話になった時に、人数に基づいてそれは決めることだと思います。そ
324 こまでの計算ができてるわけではないんですけどね。

325 【田中 清一郎 委員】

326 だいぶ古い話になっちゃうけど、3月11日にああいうことで我々も避難を余儀なくされまし
327 たよね。私の孫の中で、双葉北小に行ってる子どもと大熊の小学校に行っている子どもと、こう
328 いう家族があったんですね。大熊の場合には、若松に早く拠点をつくりました。そして町立の学
329 校も早く立ち上げた。そういうことによって方々に散らばっていた町民が若松に集ったというそ
330 ういう経緯があるんですね。双葉町の場合は、今それぞれの避難先の学校にお世話になってるの
331 が現状でしょ。町立の学校を立ち上げたというのは今までないと思うんですよね。ここの場でそ
332 ういう結論を出していくかどうかわかんないけど、今、先生にお聞きすると1人でも学校を立ち
333 上げるということができれば、少なくともいわきの辺には、植田にも相当町民もいるよ
334 うですし、役場もこっちに来るようになっているんで、これもまた復興委員の中でも結論づけた
335 ことを言っているかどうかわかんないけど、とにかく学校を立ち上げて、そういうことによって、
336 双葉町のこれからの時代を背負う子どもたちの教育もしっかりやってもらえるとありがたいな
337 とこういうふうに思ってるんですね。やはり、早く方向付けをしていかない限り、ますます遅れ
338 ますと条件が悪くなるんですよね。だから、繰り返し言っても詮無いんですけど、早く立ち上げて
339 そういうことによって、町民を集めるというかそんなことをしていったらいいんじゃないかと私
340 は思います。

341 【三井所 清典 委員】

342 鈴木委員からすごく貴重な発想のポイントを出していただいたと思います。いくつかの郡内の
343 人たちが比較的近くに集まって住むようになれば、そこに一部組合みたいな形での学校というの
344 が考えられるのではないかという話。田中委員からは例えばそういうのを先につくって、そこに
345 集まれるように更にできるのではないかという話も出てきました。こういう発想を持って議論す
346 るかしないかでは、全然方向も違ってくると思います。すごい貴重な意見を出してもらったと思
347 っています。学校から行くという話と、どこにたくさん住んでいるからそこにつくってさらに集
348 めようという話もあり得るわけで、すごく話がどういうふうにしていくといいのかなというのが、
349 ヒントがたくさん出てきたような気がします。それから、学校について、7000人の復興会議の
350 福島と東京の会議に出てとにかく驚いたことは、双葉の方々がうちの町はとってもいい教育をし
351 てたということに誇りと自信と、特に幼稚園から高校まで繋がっていい教育をしてるというよう
352 な意見がありました。高校まで繋がるというのは滅多にないことだと思いますね、日本中を考え
353 ても。そういう双葉の人たちの教育に対する期待や誇りというものは、今後のまちづくりのとき
354 にすごく重要なカギ、軸になるんじゃないかと思いました。やっぱり、そういうようなものが強
355 くあるので、学校を軸にしたまちづくりをしていこうという話は、是非進めていかれるといいと
356 思っておりますし、その時に小さな学校になりすぎるのが心配ならば、いくつかまとまってとい
357 う話もその中に含めていくと、さらに可能性も増えるかなと思いました。

358 【松本 浩一 委員】

359 鈴木先生、浪江の復興でご尽力されていますね。私、前任が前もお話したとおり浪江小学校の
360 教頭だったものですから、今30人くらいでやっています。子どもたちが非常に少ないものでは
361 から、当時の大規模校の浪江小学校とは大分違う形態となっています。荒木校長からもあったよう
362 に、先生方、指導力がある人いっぱい入ってきていただいて、なかなかその学校に馴染めずにい
363 たお子さんたちもすっかり元気になって学校に来れるようになったとか、あとは、学力の面で少
364 人数指導ですので、実績はあがっております。そういうようなウリというのも語弊があるんです
365 けど、入ったらこんないいことがあるよっていうポイントを示すのも1つだと思います。ただ、
366 中学校に行くときに少人数なので部活が選べない。大きな学校での集団生活への適応もまた大変
367 です。大きな所に行ってまた同じくなっちゃうこともあるかもしれないから、PRできるような
368 学校をつくっていくことが1番なんだと思います。もう1つは、何かに入るかどうか、この間ア
369 ンケートの話も出たんですけど、県外に行っちゃった人はいろいろな事情、状態があるのかもしれ
370 ないけど、福島県に戻るとなると抵抗があるかもしれません。いくつか抵抗、障害となるもの
371 を申し上げますと、先程笠原委員がおっしゃったように、保護者の仕事です。仕事が安定してい
372 て、今の生活を覆してまでどうかなということもあるだろうということです。「もう子どもたち
373 は半ば今の生活に慣れているよ」、「もういろいろな所で頑張っているから転校するモチベーショ
374 ンはないよ」、ということもあるだろうということです。1番なのが、例えば、双葉のお子さんた
375 ちが多い学校で、みんな、「お宅はどうする」と保護者は必ずなります。その時に、みんなが行
376 けば行くし、みんなが行かなければ行かないという現象が起こるだろうなという私は気がしてま
377 す。

378 【高野 重紘 部会長】

379 松本委員がおっしゃった菊田小学校は 16 人ですよね。騎西小学校は 49 人くらい現在いるわけ
380 でしょ。例えば、この騎西の中で、時間との戦いということであれば、双葉小学校という形もで
381 きるんじゃないかなあと思ったんですが。私もいろいろな親たちの意見を聞いてるんですが、「放
382 射能が怖いから福島県に帰りたくない」という人が結構いるんです。私の所は双葉町の山田地区
383 です。放射能が高いものだから、山田地区の人はもう帰らないということと帰れないという 2 つ
384 が相当頭に入っているものですから、県外にもそういう立ち上げの場所があれば集まるんじゃな
385 いかなと思うんです。騎西に 49 人いるので、騎西に立ち上げてもいいんじゃないのかなあと思
386 います。だから、ここと県内、例えばいわきとか、あとは逆に原町の方には今いないんですか。
387 いれば相馬地方でもよいと思います。

388 【井上 一芳 委員】

389 相馬、原町、新地で 9 名です。少ないんです。

390 【田中 清一郎 委員】

391 鈴木先生の話に反論があるんですけど、私、商工会でやってるんですね。広域連携という取組
392 を長くやってる。広域連携というのは各商工会の単商を広域的にいろいろなことを共有しながら、
393 商工会員を育成していこうというようなことをやり、県なんかの指導を受けてやってるんですけ
394 ど、うまくいきません。それぞれ、商工会の抱えている事情があるんですね。双葉郡は 8 町村で
395 すけども、これでも私もずっと首長の色はかなり見えてくるんですけど、本当に、双葉は一緒だ
396 とか、双葉は 1 つだとかうたい文句を首長さんはよくいろいろな話の中で言うんだけど、実際に
397 連携するなんてことはさらさら考えていない、それぞれ町に帰ったら議員さんとか町民のいろい
398 ろな方がいて、なかなか思いははかどらないし、それぞれの事情も、財政的なことも違うので、
399 うまくいかない。そういうことを考えたときに、今の学校を郡として括っちゃうなんてことは理
400 想としては確かにあるかもしれないと思います。しかし、私がのっけから言ったように、双葉町
401 を担ってもら子どもたちを育てようと言っているときに、双葉町なくして双葉郡ということに
402 になると私も反対だし、それからいろいろな文化とか風土とか、そういうのを継承していく子ども
403 たちに託す場合にも、何かもっとミクロなというか、そういうような話を進ませていかないと、
404 なかなかつくれるものもつくれねんじゃないかなと。これは少し脱線した話になるんですけど。
405 まずは、子づくりであるけども、我々が実際に意見が共有できる、そういうものから始まってい
406 かないと、考えを拡大しちゃうとそこにいろいろなものがあって、まとまり切れねんじゃないか
407 など。これは多少余計なことを言って申しわけありません。

408 【鈴木 浩 委員】

409 反論の反論というわけじゃないんですけど、要は、出発点は双葉町の住民の方々福島県内の
410 例えばいわきに仮の町をつくるかどうか前提なんです。その時に、双葉町の仮の町としてどん
411 と大きなものをつくるのは無理です。それはいわきを前提にして、受入れとの関係があるから。
412 これまで県庁の復興局をこの 4 月から立ち上げてもらって、復興局の方に、できるだけいわきの
413 4 つの町が仮の町だとか町外コミュニティだとか言っているので、交渉の場についてもらいまし
414 たけど、いわきの方で例えば双葉町の 7000 人の仮の町をつくるそんな場所を見つけることはほ
415 とんど不可能に近いんです。そうすると、言ったかどうか分かりませんが、浪江町の場合には、
416 50 世帯、100 世帯単位でもいいから、いわきのコミュニティの中に馴染むような入り方をしまし

417 ようという方針に変えざるを得なかった。でも、その時に例えば4つの町、もう少し増えるかも
418 かもしれません。この町がここで仮の町をつくって生活しようとしたら、やっぱりそこで子どもが
419 生まれたときから、乳幼児の福祉から、幼児教育、小学校、中学校、こういう教育が必要になる
420 でしょ。その部分は、いわきとの協調の中でどうつくっていくかということになる。要するに、
421 何もない所で双葉町の自治体が完全にできるといふんなら別ですけど、双葉町の思い通りの形で
422 つくってもらうのは不可能だなあと考えたので、去年、半年くらいかけて県の中に復興局をつく
423 ってもらって、双葉郡の方々がいろいろな格好で全国に避難をしているこの人たちがふるさとに
424 戻りたいという時の我が家をどうつくったらよいか、復興局がありますので、復興局との議論が
425 必要があるかもしれません。だから、問題は仮の町をいわきにどういう格好でつくるかが、その
426 時の核になるのが教育になると思いますので、仮の町をどうつくるのかと連動しているんだと思
427 います。

428 **【鶴沼 友恵 委員】**

429 時間が押してるのに申し訳ないんですが、話を聞いていると、仮の町はいわきにつくるという
430 ことになっているんでしょうか。ないですね。

431 **【鈴木 浩 委員】**

432 そういう方針を出されたというのは聞いております。

433 **【鶴沼 友恵 委員】**

434 いわきにつくるというのは、あくまで噂ではありますけれども、まちづくり委員会では決定し
435 てないですね。その中で、いわきありきで話をされてるのはどういうことなんですかというの
436 が1つあります。あと、学校は1日でも早く再開したいです。ですが、再開をしたところで仮の
437 町が全然別の場所になった時に対応をどうするかという大変さがあると思います。あと、平成大
438 合併であるように県をまたいで合併した市町村があるんですね。そういった場合、学校がどうい
439 うふうになるのか、事例としてあるんですから、そういう場合にどうなるのかというのがありま
440 すね。だから、私は騎西小学校に行っておそらく騎西中に行くであろう場合は、たしかに双葉の
441 先生がいてくださるとものすごく心強いのでありがたいですが、今後そういうのは震災の特例で
442 あって続くかどうかはわからないので、その辺は県なり行政なりで話をしていかれることかなと
443 思います。

444 **【三井所 清典 委員】**

445 今までの委員会の運営としては、7000人の復興会議の意見が予定の時間の中で出尽くすとい
446 うのと、その後のアンケートで意見が出てきて、それによって方針を固めていきたいと思います
447 ことにしています。今話し合いをしているのは、その時に気持ちが固まりやすいように、いろい
448 ろなトレーニングとかシュミレーションとか、そういうことのために議論をしているとい
449 う位置付けになっていましたので、いわきに仮の町とか核になる町をつくるということは決定
450 ではなくて、皆さんの意見が出てきてからの数によってあるいはここでまた審議をすることによ
451 って、決まるということになっております。それは誤解のないようにというか、そういうことで
452 進めております。私が隣の町と協調があるといいなと思ったのは、たまたま私の尊敬する友人
453 で都市計画の先生がいるんですけれども、その方が鈴木先生に協力しながら浪江のことをやって
454 らっしゃる先生がおいでになって、例えば、研究室に遊びに行ったときに、「お墓参りなんかで

455 一時帰宅するような所として、ここの高台を考えているんだけど双葉のそばなんだよね」という
456 話があって、「ああ、そういう所に双葉の方々も行けるようになったらいいなあ」と思いました。
457 また、別でお墓参りに行く場所を別に考える、しかも、そこにいろいろなサービスを付ける施設
458 をつくるのは大変だから、これは浪江と双葉と一緒にそういう場所を運営できたらまとまってい
459 いなあと思ったことがあった。それで、学校だけじゃなくていろいろなもので連携していくこと
460 の可能性を、例えば病院なんかもあるのかもしれないし、そういう一緒に考えようという芽が
461 出てきたことについては大切にしていきたいと思います。いろいろなそれに対する、そうでない
462 ほうがいいよという考えがあることも理解します。

463 【田中 清一郎 委員】

464 広域的に成功しているのは、ゴミとか消防とかそういうものは8町村でうまくそれぞれ分担し
465 て共有してやっていますよ。あとのものは広域的にやってるなんていうものは、今日副町長がいる
466 から分かると思うんだけど、絶対にそういうことはできないですよ。それで、首長さんが自分
467 が中心になってやりたいというのがあって、これはできない。できるのは消防とかゴミとか水道
468 かな。こういうのは広域的にできるんだけど、そのほかのものについてはそれぞれ抱える事情が
469 違うんで。だから、教育もそういう理想的にそういうことも先生方は考えているんでしょうけれ
470 ど、勿論そういうことも1つの視野の中でいろいろと議論しなきゃいけないと思っている。一方
471 では、我々の孫とか子どもたちにもやっぱり双葉のいいところは継承して残してもらいたいと思
472 うと、学校の先生に一杯頑張ってもらって、双葉のいいところを、子どもたちに見つけて、その
473 子どもたちが次の世代を担っていく、こういうことを町が中心となってやりたいと思っている。
474 そういうところからすると、議論が逸脱してるんじゃないかと私は思ったのでそういうことを申
475 し上げたんです。これからいろいろと議論でしょう。

476 【高野 重紘 部会長】

477 なかなか結論として出ないと思うんですが。

478 【井上 六郎 委員】

479 私はいつも思っているんですが、拠点のつくり方が問題なんだと思いますよ。どこに拠点を置
480 くのか。役場機能はいわきにもってきました。そうすると、今避難している分布を見ますと、そ
481 こに入っている人たちは、そこで職につき、そしてその地域の学校にみんな子どもたちが世話
482 になっている訳ですよ。そうなったときに、拠点をどこでもいいから3つか4つに絞って、そ
483 して、ここにもし学校ができたとするならば、あなたはどこに住みますかというようなアンケー
484 トがなくては、これから一歩前へ進めないと思うんです。私はいつもそれを考えているんです。
485 それで、例えば県費負担の教員の場合、加須についてはどうなんですか、双葉町から補助は行っ
486 ているわけですよ。県費負担教員については県から行ってるんだと。という、そこにだって
487 仮の学校は成り立つわね。県の許可があれば。

488 【鈴木 浩 委員】

489 学校が成り立つかどうか。教員は派遣できてもね。

490 【井上 六郎 委員】

491 加須にも大分定着してる人たちは多いわけですよ。そういう人たちは土地を求め、子どもたち
492 はもう1人前になってるんだと。学校も卒業してしまってるんだという家庭もかなりあるわけで

493 すね。それで、今拠点をつくるからここにあなたは入学しなくてはなりませんよという言い方で
494 は、子どもは動きませんよね。やはり、親があつて子ですから、親の意見は子どもに十分左右し
495 ますよね。子どもだけを置いてわたしらは福島に職を求めたんだからそこで住むよとそこで別居
496 生活になるわけですよね。そうすると、当然そこに親と子どものきずなが断ち切られてしまう可
497 能性があると。やはり、親と子のつながり、きずなを考えながら、学校も考えていかなきゃなら
498 ないし、それから、町のコミュニティとの関係についても考えなきゃいけないと思います。以上
499 です。

500 【鈴木 浩 委員】

501 井上委員のご意見、少なくとも私が考えてる考え方と似通っている部分を念のためお話ししま
502 すと、おっしゃる通り、拠点というのは1カ所に全部集まるのではなくて、今の状況から言うと、
503 県外も含めて何カ所かに双葉町の拠点をつくる。でも、その所に行って集約はするんですけど、
504 もっと重要なことは、その拠点到元の双葉町の住民がみんな集まるわけではありません。全国に
505 たくさんそれぞれの所で生活を確立しはじめている、その人たちに双葉町のきずなをどう伝えて
506 いくかということも1つの重要な課題だと思っています。だから、北海道であろうと九州であろ
507 うと、そこに双葉町の子どもたち、家族の方が行っているときに、今回の災害の被災の結果、避
508 難している訳だから、そういうときに双葉町はどういう支援をするのかということも重要だし、
509 その中枢の部分に、子どもたちのきずなね、全国にバラバラにあったとしてもどういうふうにし
510 ずなを継続していくのかという仕掛けも必要だと思っていますので、私は、一方である種の拠点を
511 何カ所かつくるのと同時に、そこに集まりきれない人たち、いろいろな事情で当然出てきますか
512 ら、アンケートをとりながらでもそういういろいろな個別の人たちとの結びつきの共有の場面で
513 つくっていくというのが必要かなと思うんですね。1カ所に決めてしまうのは難しいのかなと思
514 います。そのとおりだと思います。

515 【三井所 清典 委員】

516 今の井上委員のご意見と鈴木先生のご意見を聞きながら、拠点がいくつかできたとして、その
517 拠点には、双葉の幼稚園から全部、高校というのは無理かもしれないけど、中学校まではあると
518 いう考え方はあると思うんですね。その拠点といってもあんまり大きくない拠点もあるかもしれ
519 ない。その時には、その子どもたちにはその拠点なる地域の学校に行くのかなというふうにも
520 思う。もっと数の少ない所は、今鈴木先生がおっしゃったように、もう当然その学校にお世話
521 になるわけだから、そのお世話になっている子どもたちを、拠点の学校のない所の子どもたち
522 に対しては、どういう教育を、双葉の教育をどうやってやっていくのかなということを考えなき
523 ゃいけないかなというふうに思ったんですね。ですから、元双葉町の子どもたちにとって、全国
524 にいる子どもたちにとって、拠点での教育と地域の中にとけ込んでいる子どもたちへの双葉教育
525 というような、何か少しグラデーションというか、だんだんある強さが強くなっていく或いは弱
526 くなっていくのかもしれないけど、ある部分については徹底してちゃんとやっていくようなこと
527 になるのかなと思ってきました。

528 【笠原 真一 委員】

529 また最初に戻ってしまうのかもしれないんですけど、もう他でやると決めた子は少し時間がか
530 かってもいいと思うんです、決めてるので。今迷っている人たちを優先にスピードを。置いとく

531 わけではないんですけど、まずは県内のことを先にスピードアップしてやっていただきたいなど。
532 ずっと決まらないので議論を見ていると。本当に絞って思い出の強い子たちというんですか、残
533 っているうちに早く県内に1カ所でもいいからつくった方がいいのではないかと私は個人として
534 は思います。

535 【吉田 清己 委員】

536 吉田と申します。今回初めて本会議に出席させていただいたんですけど、私の子どもは3人い
537 まして、震災の時には小学校・中学校・高校と3学年というかいるんですけど、最初はこんなに
538 長くなるとは思わなかったもんですから、北小学校、中学校に通ったら一生懸命勉強するんだと
539 思って、転校してった学校でも勉強しなかったんですけど、双葉町の集いで元の校長先生に言わ
540 れたんですけど、双葉には戻れないんだからここで人生を決めるんだみたいな意味で「一生懸命
541 勉強しなさい」と言われて、今を楽しむように子どもたちには言って、今、埼玉県の中学校から
542 福島県の高校に行ったんですけど、福島県の高校に入るときは、やっぱり埼玉県の中学校ではな
543 かなか福島県の高校のことがよくわからなくて、大分親も何回も往復して、「こちらでは自分た
544 ちで調べて下さい」と言われたもんですからそれで苦労した面があるんで、できれば高校に入る
545 ときは、なるべく中学校と高校は一貫して考えた方がいいのかなと思ってます。それにあと、先
546 程から、学校を始めるのであれば、高校生の娘が今富岡高校なんですけど、富岡高校はサテライ
547 トが何カ所かまだ残っておりまして、高校生ならたぶんできるんだと思うんですけど、寮みたい
548 な感じで今高校が湯本あたりに高校生を集めて、親はあちこち仕事をして生活してるんですけど、
549 それを小学生、中学生に考えると少し難しいなあと思うんですけど、子どもが集まれば親も集ま
550 るみたいな感じが昔からありましたので、小学校1、2年生は少し難しいかもしれませんが、
551 高学年になれば、双葉の全寮と言っちゃおかしいんですけど、そういう少しずつ子どもを集めて
552 いくのも1つの方法かなと考えています。以上です。

553

554 (2)「仮の町」に住まないと選択された方への支援について(審議)

555 【高野 重紘 部会長】

556 それでは、次の議題に移ります。次の議題は、仮の町に住まないと選択された方への支援につ
557 いてです。まず、本日、ご議論をいただきたい「仮の町に住まないと選択された方への支援につ
558 いて」、事務局から資料の説明をお願いします。

559 【事務局 駒田 義誌】

560 それでは資料5をおめくり下さい。その前に、先程笠原委員の方から学校の意向を聞いた方が
561 いいんじゃないかというお話を伺いまして、それは12月20日からの住民意向調査の中で、学校
562 について保護者の方を対象に、施設のよい・教育内容のよい学校ができれば通わせたいと思うの
563 か、避難先のどこかに双葉の学校ができれば通わせたいのか、避難先の近くにできれば通わせたい
564 のか、それとも、もう避難先で通っているので再開の必要がないと思うのかと意向を確認する
565 アンケートはさせていただきますので。

566 【笠原 真一 委員】

567 いつに発送ですか。

568 【事務局 駒田 義誌】

569 20日に発送予定で、年始までに回収する予定にしていますので、申し添えます。

570 【笠原 真一 委員】

571 はい、分かりました。

572 【事務局 駒田 義誌】

573 それでは戻ります。資料5になります。「仮の町に住まないと選択された方への支援について」
574 ということで、これは10月の第3回の委員会で大きな論点とされた部分になります。具体的に
575 本日ご意見をいただきたいと思いますのは、仮の町が条件に合わないなどの理由によりまして、
576 仮の町に住まないという選択をされる町民の方も出ていらっしゃるかと思います。こうした町民
577 に対して町としてどのような支援が必要となるかということです。具体的には、例えば基本的な
578 行政サービス、福祉の問題、教育の問題、ごみの問題など避難先の自治体から皆さん受けていら
579 っしゃるということで、そういうのは制度上可能になっております。しかしながら、例えば、町
580 からの情報提供、また、これから考えたとき、健康管理の問題など双葉町独自の行政サービスと
581 いうものについて、どこの町に避難していても継続して行っていく必要があるものはどのような
582 ものがあるかということについてご議論をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

583 【高野 重紘 部会長】

584 説明が終わりました。それでは、意見交換に移ります。この論点は2つありますが、いずれの
585 論点からでも結構ですので、ご意見をお願いします。

586 【井上 六郎 委員】

587 仮の町に住まないというのは、考えられるのは、自立してしまっている。自立というのは、子
588 どもが家をつくった、そこに同居したいという人たちもいるだろうし、それから、仮の町がどこ
589 にできるのかまだ分からない、だから仮の町に住むつもりはないという方もいるだろうと、こう
590 思うんです。だから、くどいようですが、拠点をつくるということは大事なことであろうという
591 ことなんです。それで、どんな支援をすればいいのかというと、行政上自治体だって、そういう
592 人たち、旧住所にその居住権を置いている人たちだってこれから大分出てくるだろうと。そうい
593 う住民に対しては手厚い行政の支援が必要ではないかと考えますので、やはり、拠点づくりが何
594 ヵ所かに必要であろうと思います。

595 【三井所 清典 委員】

596 今の井上委員の拠点づくりが重要だというのは、住まないと決心した人にとって拠点がはっき
597 りしてて、その拠点があるから私は拠点の所には行かないけど、拠点からサービスが受けられる
598 ようになるから安心して離れて住めるんだという、そういう意味での拠点をおっしゃっているの
599 でしょうか。

600 【井上 六郎 委員】

601 そういう方もいるだろうと。

602 【三井所 清典 委員】

603 そういう方もいるからと。わかりました。

604 【鈴木 浩 委員】

605 1つだけ。情報を提供するようつもりでお話しします。今、仮設住宅というのはご承知のよ
606 うに住んでおられる方はたくさん福島県内には多いんですけど、あれは1年間延長してようやく

607 3年にしました。最初は2年だったものが。たぶん、3年に延長したけども、今回の災害は、阪
608 神淡路大震災よりももっと長期化する可能性が大きいので、あの時5年まで延長しましたので、
609 5年とか6年とか延長はあり得ると思います。でも、今の仮設住宅だとかみなし仮設住宅は、み
610 んなの生活を支えるために十分な機能を持ってるかというのと、この問題があるので、いたずらに
611 延ばせば、避難している人たちの気持ちは安心できるかというところでもない。となると、やっ
612 ぱり3年とか4年くらいで次の段階の居住・住まいの在り方を早急に見通しを立てないといけな
613 い。そのために、我々は、仮の町とか町外コミュニティというのは、これも最終的なものではな
614 いけども、2段階目、3段階目もあり得るかもしれないけど、あの仮設住宅のタイムリミットに
615 合わせて、そこから放り出されちゃったらたまらなかったので、そのつなぎをどうするかというの
616 が今すごく重要になってるんです。もう1年9ヵ月になっていて3年というのはあと1年3ヵ月
617 です。極端に言えばね。その間に仮設だとかみなし仮設はもう、既に見なし仮設については都道
618 府県によっては「もう切り上げますよ」と言ってるわけだから、条件がバラバラですね。だから、
619 今私たちが仮の町であろうと何であろうと、それ以前に、みなし仮設や仮設に住んでいる人たち
620 の次の段階の居住の安定をどうするのか、というのをやっぱりきちっと求めていかないといいな
621 い。できるだけ前倒しというか、ここからスムーズに災害公営住宅だとかあるいは自立建設だど
622 かいろいろなメニューを用意して、この条件が示されたときに初めて、「あなたは仮の町に行き
623 ますか」、「どうしますか」というのが意思が表明できるわけで、今は意思の表明の仕方もないで
624 すよね。だから、今重要なことは、この今の避難所暮らし、仮設住宅、みなし仮設、自主避難の
625 方々に、今双葉町が考える次のメニューはこういうメニューがありますということを示した上で、
626 仮の町がその中でどういう位置づけなのかというのをやらないと、アンケート調査やっても次の
627 段階が見えないと思いますので、その条件整備をしましょうというのが大きな課題のように思
628 いまけど。

629 【鶴沼 友恵 委員】

630 今後の行政サービスとは継続していくものとは、行政としてどうやるかというのは難しいとは
631 思うんですが、私現在、生徒ホールでカフェをやっているのですが。というのは、ここに居住して
632 いない、近くに借上げアパートを借りている方々は、ここは騎西の双葉の人たちがいるというの
633 でシンボリックなものなんです。遊びに来て双葉の人たちに会いたいと思って来ててもなかなか
634 居場所がない、ゆっくりしゃべる場所もない、情報を共有する場所もないということでカフェ
635 をつくったんですが、そういう場所で、ある程度人数が双葉町に限らず全国に散らばっているの
636 で、ある程度人数がいる所というのは、そういう拠点というかシンボリックな場所はしばらくの間
637 は必要なのかなと思いますね。その中で、例えばネット回線なんかを繋いで町の人たちと繋がっ
638 ていくというのも1つありなのかなと。その避難先で仮の町に行きませんよと言っても、独りで
639 ポツンといるのがものすごく大変で孤立化しているのが1番の問題なので、各地にちっちゃい掘
640 立小屋でも部屋の一角でもいいので、あるとそれぞれの気持ちの持ちようが違うのかなと。その
641 避難先でもう馴染んだから、寂しいとか双葉の人に会いたいとか思わなくなっちゃったからいい
642 わよと言えればそれで閉鎖すればいいことなので、そういうことが1日でも早くあればいいことだ
643 と思うんで。しばらくの間、そういう精神的な心の拠り所というのがあったほうがいいのかと思
644 います。

645 【三井所 清典 委員】

646 田中委員の、将来の双葉を担ってくれるような子どもを学校で育てたいとおっしゃってたんだ
647 けど。

648 【田中 清一郎 委員】

649 今、住宅の話をしましたけれども、仮設住宅、あれはご存じのように、つくりが、本当に半年
650 や1年くらいのスパンの中で計画した建物なんです。だから、土台がなくて杭を打った上に乗
651 っけてるということ。それから、あの契約の中にはいずれ解体する、更地にするという計画が1
652 つと、特に夏場につくったもんだから、9月ごろまでに何万個つくる、福島県の話だけにします
653 と、安普請でバタバタとつくったから、いわきなんかは結構暖かいからそれでも冬を越せたけど、
654 会津は越せなかったからサッシを二重にしたり、もう1つ玄関を作ったりいろいろな補強をしな
655 きゃ人間が住めないというね。それに、もう2年あまり住むんでしょ、3年まで住めというんだ
656 よ、あそこにね。これは所詮無理なんです。借上げ住宅なら、それぞれそういう既存の生活で
657 できるような環境の所ならいいけども、早く仮の町というものをつくって居住の環境を整備する
658 ということは、我々も早く結論を出して、そういうものに働きかけていかなきゃいけないと、こ
659 う思いますね。それから、今いろいろね、拠点のことを言いましたけど、おそらく1つの拠点
660 では皆さん了解しないと思いますよ。だから、それぞれの所で拠点をつくって早く安定した生活
661 をするような方向で、役場の方でもっとスピードを上げていただかないと。この委員会も回は重
662 ねてますけど、結論済みのものが1つも出てないのを私は残念に思っているんですけど。それだ
663 けのことを出せないということは権限を持たせられていないということなんでしょうか。あと、
664 私、少し疑問に思ってるのは、この委員会でそれぞれの部会でいろいろなことを答申しろとい
665 うことを町長から委託されてると思うのね。もう1つ、7000人の復興会議があるでしょ。7000人
666 の復興会議して、その意見をまとめるというつもりなのかどうか、私とっても疑問に思ってるん
667 ですよ。私は、もう1つ言うと、町議会議員が8人いますけど、我々の町民の代弁者だと私は思
668 ってるんですよ。だから、町議会議員がこういうことで行こうということをもって、それと町長が
669 「じゃあ、そうしましょう」となれば、これは大部分の町民の声が託されてるんじゃないかと思
670 ってるのね。町議会議員がどういう役割でこの会議に入ってくるのか知らないけれども。そうい
671 と1つと、7000人の復興会議というのは、壮大な時間とエネルギーを使ってどういうふうによ
672 くとめなのか、あの人たちに話を聞いて、別の結論を出したらまた別のそういうことでの收拾が
673 なくなるんじゃないかなと私は思ってるんですけどね。私は素人だから、私だけの考えであら
674 ばいいと思います。

675 【三井所 清典 委員】

676 委員会の運営として、町議会が普段と同じように町民がそばにいて町民の意見を常に吸収しな
677 がら議事に臨めるような状況ではない。それでいて大変なことを決めなきゃいけない。町民の普
678 段意見が言えないような人たちも全部意見を言って聞いてからにしよう、というようなことにな
679 っているんですね。今日の後半でどうやってまとめるかということが議題になるんです。もう1
680 つ、復興庁のアンケート調査が12月20日に発送されて、そこでの皆さん方の中学生以上の意見
681 がまとまることになって、その2つの情報を委員会で見ながら検討していく。今私たちがこうや
682 って部会に分かれていろいろな議論しているのは、データが上がってきた時にどうするかという

683 ことの判断をし易い状況をつくるために、今私たちはいろいろ議論しています。結論を出す芽が
684 たくさん出てきているというふうに理解していただきたい。こういう議論なしで何かパッと結論
685 を出すと間違ったことが起きるかもしれない。少数の意見だけで出るかもしれないと思ってるも
686 のですから、極めて町民の広い意見を、直接民主主義みたい感じで出てくるような状況を今つく
687 ってらっしゃると思うんですね、町として。それをみんなで議論しながら、出てくるのを期待し
688 ながら、一方では、こうやって少しずつ出てきているのを理解しながら議論していきたいと思っ
689 ています。2月、3月は大変な忙しさになると思います。

690

691 (3) その他

692 【事務局 駒田 義誌】

693 委員会資料4のご指摘の件、まさに後半でお話をしようと思うので、簡単にご紹介させていた
694 だくと、今7000人の復興会議で町民の方々、様々な意見がたくさん出ています。それは1回年
695 内に整理をした上で、今回ずっとこの委員会で議論してきた論点に当てはめるような形で整理を
696 したものを2月の頭くらいに委員会でお示ししたいと思います。その時には、これから住民意向
697 調査ということでアンケートの形の調査を12月20日から皆様のお手元に行きます。その中には、
698 例えば仮の町について移り住みたい意向があるか、若しくは、現在判断できないけれども具体的
699 なイメージが出たら是非考えたいと思っている方がどのくらいいるのか、若しくは、仮の町に住
700 まないと思われる方がどのくらいいるのか、また、場所についてもどういった意向があるのかと
701 いうところのアンケート調査の結果も2月の頭には出てまいります。そのため、アンケートが出
702 てきた段階で、7000人の町民の意見も皆さん見ていただいた上で、それに対して委員会として
703 どういう答えを出していったらいいかということも2月に集中的にご議論いただいて、答えを具
704 体的に出していきたいと思っています。そのために、1月の段階では、その答えを出す項目が、
705 どういう項目に答えを出さなきゃいけないのかというのを、この数カ月の議論を踏まえた整理を
706 1月に議論していただいて、それに対して、繰り返しになりますが、町民の意見を見て、具体に
707 この委員会で答えを出していただいて、3月の計画案にまとめていただくという形を今考えてい
708 ますので、今やっているプロセスというのはそこに反映させていくような形で、7000人の復興
709 会議もアンケートもやっていく形を考えています。

710 【田中 清一郎 委員】

711 質問します。7000人の復興会議というのを各方面でやられてますよね。出席率はどのくらい
712 ですか。

713 【事務局 駒田 義誌】

714 出席はそれぞれの会場で、1番大きいのは1番初めにやった福島の70人ですが、それ以外だ
715 と20人、30人という形で各会場でされています。

716 【田中 清一郎 委員】

717 だから、7000人の町民に、平たく意見を聞くという狙いでやっているんでしょ。ただ、福島
718 なら福島の、どのくらい知ってる人がいるか分かりませんが、出席率がどのくらいかというこ
719 を検討すべきだと私は思ってるのね。それを7000人の声として取り上げて、「こういう委員会の
720 場でこういう意見がでましたよ」、「それは7000人の意見です」、「総意ですよ」と来られると私

721 は危険だと思うんですよね。7000人の復興会議をやることについては、私は悪いとは言ってま
722 せんよ。ただ、そういうことをすることによって物事を決めるものがどんどん遅れているんじや
723 ないかと。私は当初この会議の時にも言いましたよね。よその町村はどうなってますか。9ヵ月、
724 10ヵ月、1年の前にも大体結論じみたことをやってますよという町村ありましたよね。我々はそ
725 こからスタートしてるわけですよ。そうすると、特に仮設住宅の場所なんかもそうだったように、
726 私はそういう係をもってたから、「なかなか双葉町だけが申請に来ない」と言うんですよ、県に
727 ね。来ても、「こういう所どうですか」と言ってもなかなか双葉町は返事しない。こういうこと
728 がかつて私はそういう経緯を知ってるんですけど。ですからね、8町村が連携をとるということ
729 は、大熊なら大熊が会津若松に拠点をつくって、学校を立ち上げた、4月からはね、学校を開校
730 して、それぞれ避難している子どもたちが大体若松の方に集結したと。こういうふうによくから
731 できるわけですよ。だから、私は、この会議は大事な会議なんだからスピードを上げて、とにかく
732 遅れてるんだから。そこへ、7000人の人の意見を聞くことは、私は大変いいことだと思う。
733 ただ、町会議員なんかは、我々はある程度あなたに我々の考えをとにかく任せてるんだから、そ
734 の政治の場とかそういう場で、「町をいい方向に向かって頑張ってくれよ」と言うことのための
735 町会議員だと私は思う。いずれにしたって、建前はそうなるんだ。だから、「町会議員が議
736 会軽視」なんて言われないようにしなきゃいけないし、この場に、2人の町会議員がメンバーに
737 入ってんの、ずっと欠席してんのね。これも私はどういうことか分かっているけれども、これで
738 いろいろな事を決めていったときに、当然議会の承認を得なきゃいけないわけでしょ。そのとき
739 に、せっかくみんなで集めた意見が反故にされないようにしなくちゃいけないという心配を持っ
740 ているの。

741

742 3. 閉 会

743 【高野 重紘 部会長】

744 本日の生活再建部会は終了させていただきますが、時間がオーバーしまして本当に申し訳ござ
745 いません。議事進行にご協力いただき本当にありがとうございました。

746

以上

第3回生活再建部会座席表

(敬称略)

渡邊 高野
ゆかり 重紘

1 日時 平成24年12月11日(火)

14:00~15:30

2 場所 双葉町埼玉支所 4階家庭科室

田中 清一郎		三井所 清典	駒田
井上 六郎		鈴木 浩	事務局 吉野
松本 浩一			佐野
荒木 幸子		中村 希雄	
笠原 真一		鶴沼 友恵	事務局
吉田 清己		井上 一芳	
山下 正夫		高野 憲一	
大沼 武		(代理) 山本 一弥	